

春日家に帰るしゅんじついえ かえ
（正岡子規まさおかし き）

車くるまに 乗のり 馬うまに 騎のつて 早はやく 帰かえり 来きたる

一ひとたび 双親そうしんに 謁えつすれば 喜よろこび 自おのずから 催もよおす

処々しよしよ 鶯うぐいす 啼ないて 春海はる うみに 似にたり

故園こえんの 芳樹ほうじゆ 吾われを 待まつて 開ひらく

乗車騎馬早歸來 一謁雙親喜自催
處處鶯啼春似海 故園芳樹待吾開

解説 春の日、久方ぶりで両親のいる家に帰り、その喜びを詠じたもの。

語釈 ※双親＝父母。※自＝自然と。※処々＝あちらでもこちらでも。※春似海＝春の草花が風に揺れ、波打っている様子を海にたとえたもの。※故園＝ふるさと。※芳樹＝花の咲く樹。

通釈 車に乗り、あるいは馬に騎のつて急いで家に帰って両親の顔を見ると、自然と喜びが湧き上がってくる。帰りの道々、また、家の回りの到るところに鶯が啼いて、目に映る春の様子は海にも似て欄漫らんまんである。ふるさとのわが家の木々が、自分の帰郷を待っていたかのように花を美しくつけている。